

# 混ぜれば「ごみ」、分ければ「資源」

で密閉したりしてましたが、今は分別した生ごみをバケツに入れるだけ。バケツに入れるとにおいません。もちろん、ふたを開けた時にはにおいますが、普段は全然においません。今までの労力を考えれば、大分楽になりました。

また、ごみステーションがきれいになりました。どうしても生ごみが散らかってしまうことが多いのですが、今ではそんな光景はありませんし、生ごみ特有のにおいも消えました。ただ、日中の気温が上がるこれからの季節はどうなるのか心配です。

和田貴子さん  
(西大館町内)



私の家は、人数が多いので、今使っているバケツでは、足りないくらいです。この間は満杯でした。収集回数を増やしてもらえれば助かります。私は、におい消しのため、魚の内臓には、熱湯を掛けてから捨てるようにしています。コー

ヒーかすがある時には、それを生ごみの上から捨てています。お茶のかすも効果があるようです。まだ始まったばかりなので、どここの家庭でも試行錯誤だと思います。みんな情報交換してみれば、いろいろな「知恵」も出てくるんじゃないでしょうか。



## 循環型農業へ向けて

生ごみ分別は、ごみの減量化とともに、資源化への効果が期待できます。これまで、学校給食や養鶏業、小売業からの廃棄物がコンポスト(たい肥)の原料となっていました。今回、消費者である各家庭からの生ごみを加えることにより、たい肥への理解が進み、さらに、そのたい肥を使用した地元農産物の消費、いわゆる地産地消が期待されます。

市では、より一層ごみの減量化と再資源化に取り組みと共に、循環型農業、地産地消を推進します。



マイ・プライベート・タイム

## 市長リポート

No 255

スピーカー作りもさることながら、私は、時間を見つけてはできるだけ本を読んでいます。特に決まった分野の本を読む訳ではなく、SF小説から政治ものまで、多種多様な分野を乱読しています。

実は、小さい頃から、映画を見ては、自分も流ちょうに英語を話してみたいと思っていました。そのため、高校、大学と英語研究会(ESS)に所属していましたし、大学では文学部でした。一生懸命に努力しましたが、悔しいことに、今でも聞き取りは苦手です。その代わりと言っては何ですが、英語で書かれた本(ペーパーバック)を読んでいます。不明な単語は電子辞書を引きながら、読み進めますが、月に2〜3冊は読んでいます。一度読み始めるとその面白さに引き込まれてしまい、次はどうなるのか、早く読み進みたい気持ちに駆られます。

読書の楽しみでもあり、その効果でもあるのが、想像力と創造力を膨らませることができることです。1冊の本を読むことによって、自分の物の見方が変わってしまうほど影響を受けることがあります。特に自分が知らない分野の本であれば、見識が広がります。どのような本を読むのであっても、読書をするこの意義は大きいと思います。ぜひ、皆さんにも読書をお勧めします。

さて、行政の仕事も読書に通じるものがあると思っています。1冊1冊、物語の展開や主張が違うように、市民の皆さん一人ひとりに、それぞれ生きてこられた経験談や考え方があります。特定の分野に偏らずに本を読むように、これからも、皆さんのいろいろな意見や考えに耳を傾け、そして、それらを踏まえて、政策の実現にまい進したいと考えています。

小畑 元